2021年度水俣フォーラム 事業報告

2021 年度はコロナ禍の中で少しずつ活動を再開させた年となった。2 年ぶりの水俣病記念講演会は、コロナ対策で席数が半減となり、ポスターは制作せず、書籍もブックフェアを中止して通信販売にするなど、制約は極めて多かったが開催の意義も大きく、またオンライン配信を初めて採り入れた。福岡では中止となった水俣・福岡展を補うべく 11 月に 2days 水俣病講演会を開催し、1 年 3 か月ぶりとなった水俣セミナーは 3 回開催した。いずれも配信を併用したが、オンライン参加者はこれまでのところ増えつつある。前年度発行できなかったNEWSを 2 回発行するとともに、Twitter と facebook による催し案内の定期発信を開始し、広報の幅を従来より広げることに努めた。映画『MINAMATA』の公開に合わせた水俣病記録映画の連続上映会は来年度以降に延期する一方、水俣病関連書籍 3 点の編集に協力した。運営面では 4 月から若手常勤職員 2 名が加わり、活動の将来への継続に道すじをつけ、財政的に支えていただくために前年度から募った「水俣フォーラム継続基金」には目標額を超える 1660 万円のご寄付をいただいた。まだしばらくはコロナの状況を見ながらの活動になると思われるが、だからこそ多くの人たちに水俣を伝え共に考える場を作っていけるよう、来年度の活動に臨みたい。

評価

下記事業の中で、特に計画以上に進めることができた事業は、福岡展準備の進行、第19回記念講演会の開催準備（延期となったが、かつてない多団体の協賛を得た）、目標を上回った継続基金の募集である。一方、計画通りに進められなかったこととしては、首都圏展の会場を確定できなかったこと、海外向け多言語発信の準備における翻訳協力者とボランティア体制の未確立、水俣病記録映画の連続上映会の延期である。

１.水俣病公式確認６０年記念事業

①展示物のリニューアルと新規制作の進行（入稿データ完成は 2022 年度、発注は 2023 年度）
②水俣展全図録の編集（入稿データ完成は 2022 年度、発注は 2023 年度）

２.水俣展

①福岡展　グリーンコープに 2023 年開催を提案
　命に向き合う 2days 水俣病講演会の開催
　（11 月 7・8 日、福岡・西南学院大学コミュニティーセンター、1495 人、うち来場 280 人）
②首都圏展　2024 年の会場を調査

３.講演会開催（いずれもオンラインを併用）

①記念講演会　第 18 回の開催（4 月 24 日、有楽町朝日ホール、356 人、うち来場 217 人）
第 19 回の開催準備（2022 年 4 月、京都･立命館大学朱雀キャンパス、469 席）
※新型コロナウイルスの影響により第 19 回の延期を決定

②水俣セミナー　3 回開催、5・7・12 月、249 人（うち来場 63 人）、新宿･常円寺

４.機関誌発行

①水俣フォーラムNEWS　2 回発行、9・4 月、2600 ～ 2700 部

５.インターネットによる発信

①各種 SNS での定期発信（ツール・体制を決定、催し案内を発信）
Twitter・facebook　9 月開始

②海外向け多言語発信準備（発信言語の調査）

③ホームページの刷新（団体概要的な内容を改良）　実施せず

６.その他の事業

①水俣病記録映画の連続上映会　翌年度以降に延期（12 企画、当初予定 11 月 1 ～ 3 日）

②石牟礼道子データベース共同製作の計画立案（石牟礼道子資料保存会と、検索システム）

③「水俣セミナー この講師のこの一言」または「水俣病講演目録」の作成準備　実施せず

④水俣病ライブラリーの整理（書籍、映像、写真、音声）　複数冊所蔵書籍の整理を開始

７.水俣病関連書籍の出版編集協力

①石牟礼道子エッセー　編集協力

②石井妙子『魂を撮ろう ユージン・スミスとアイリーンの水俣』9 月、文藝春秋

③田口ランディ『水俣 天地への祈り』9 月、河出書房新社

８.水俣フォーラム継続基金

① 1500 万円を目標に募集を継続（10 月に目標到達、22 年 3 月時点で 1660 万円）

９.総会・理事会・運営委員会

①総会　6 月 19 日、出席者 30 名、表決委任者 422 名（正会員 924 名）

②理事会・運営委員会　理事会 1 回、合同運営委員会 6 回、出席率 82 ％

１０.事務所機能向上のための取り組み･運営基盤整備

①事務所の書棚とファイル棚の一部整備

②旧展示物を含む倉庫の整理と各種制作物・資料の廃棄　実施せず

１１.助成、補助金等

［21 年度についての確定分］

①環境再生保全機構地球環境基金助成金、480 万、3 年計画の 1 年目

「オンラインと対面型の併用による水俣病の普及啓発と人材育成」

②東京都中小企業月次支援金、10 万

［22 年度についての申請］

①環境再生保全機構地球環境基金助成金、600 万（上限）申請、3 年計画の 2 年目

「オンラインと対面型の併用による水俣病の普及啓発と人材育成」500 万内定

理事	実川悠太	常勤	67 歳	西東京市	理事長
	関口 清	川崎市職員	67 歳	横浜市	副理事長
	東郷佳朗	神奈川大学准教授（法社会学）	54 歳	横浜市	副理事長
	郡山リエ	元･福祉施設職員	73 歳	厚木市	
	秋元孝行	江戸川区体育会事務局長	69 歳	大田区	
	瀬戸口裕子	都立王子総合高校教員	47 歳	練馬区	
	渡辺純規	事務局非常勤、元･都立高校教員	66 歳	川崎市	
	服部直明	常勤	55 歳	川崎市	事務局長
	（なお、理事は運営委員を兼務することとする）				
運営委員	石井由樹子	森のようちえん葉山「もりのわ」代表	48 歳	横須賀市	
	金尾敏恵	NPO 法人 VIVID 事務局長	58 歳	西東京市	
	市橋久美子	企業年金基金職員	57 歳	さいたま市	
	宮崎洋介	化学会社研究員	49 歳	つくば市	
	篠塚智子	ゲームライター	38 歳	調布市	
	市川幸一郎	相模原市立小学校教員	32 歳	横浜市	
	豊野堯	月刊バレーボール編集長	45 歳	荒川区	
	本多真弥	日本放送協会ディレクター	29 歳	狛江市	
	大八木勉	事務局非常勤、日本映画大学職員	45 歳	川崎市	
	宇田川弓	常勤	44 歳	品川区	
	梁取優太	常勤	27 歳	さいたま市	